

2024
年 4 月 1 日

令和六年度（2024年度）入社式 式辞

（スピーチ原稿版）

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

目次

1. はじめに
2. 再び復活するか日本経済
3. 課題解決の役割を担うITサービス
4. 当社の概要とITサービス、その過去と現在
5. 大変革期の渦中にあるITサービス
6. 時代の半歩先へ、進化する当社
7. 未来を拓く若者への期待
8. おわりに

1. はじめに

☆ 御茶ノ水駅前の外堀通り、神田川沿いの櫨の葉芽が門出を祝う。

3月の冷え込みの余波か、都心の桜並木はまだ咲いていないが、神田川沿いの櫨の先端には、薄っすらと葉芽が広がる。

春4月、変わらぬ自然の営みに触れ

新たな人との出会いを前にすると、希望が湧き、心が洗われる。皆さんにとっても、待ちに待った社会人としてのスタートです。

去年はコロナ禍の下での入社式、全員がマスクをしていたが、今年にはコロナ明けの初めての入社式、マスク着用は自由だ。

新入社員107名の希望と期待に満ちた皆さんの表情から

ITサービスの新時代を拓く若者達の情熱が

ひしひしと伝わってきます。

本日は、当社アイヴィスへの入社、おめでとうございます。

☆ 日本は少子高齢化で課題山積、未来を拓くのは若者とITだろう

先進ITを駆使する若者達が日本の新産業革命への道を拓く。

高い目標を持った挑戦は、困難と表裏一体、

夢を大きく、困難を超え、仲間と共に新時代を拓いてほしい。

2. 再び復活するか日本経済

☆ 2月後半、東証日経平均株価が34年ぶり最高値を更新した。

1989年バブル期最後に記録した3万8957円が従来の最高値。

3月4日、日経平均株価は終値で4万円を突破した。

背景にあるのは円安、

大手製造業を中心に業績を底上げした。

不況中国から撤退する欧米投資資金の流入も株高を演出した。

企業業績の向上と春闘の物価上昇率超える賃上げ見通しから、

日銀は15年振りのマイナス金利の解除に踏み切った。

失われた30年のデフレ経済からの脱却だ。

欧米など海外のインフレ抑制の高金利政策が円安の背景、

企業の競争力が高まった訳ではないが、

収益上は大幅な好決算となる。

それがあつての賃上げ、

経済は循環、景気回復へ千載一遇の好機到来だ。

国内消費を媒介に、再び、日本経済は復活するのか。

3. 課題解決の役割を担うITサービス

☆ 日本経済復活で見えてくる日本の課題とITサービスの役割

日本は、ドイツに抜かれて世界のGDP順位が4位に転落した。

為替の問題もあるが、少子高齢化による生産力低下が原因だ。

前年の出生者数は75.8万人、

戦後の高度成長期、団塊の世代は250万人超だったが、

今やその1/3以下、徐々に減って来てコロナ期間に激変した。

一方で健康福祉大国の日本は高齢者が元気なので、

一時的とは言え、若者の負担も大きくなる。

経済が復活すれば、この課題が再び大きく浮上して来る。

必要な対策は、目先の少子化対策ではなく、

生産年齢人口の引上げと

生産者一人当たりの労働生産性の抜本的な向上だ。

課題解決は、産業界と共に、

社会全体に於ける生産性の向上となる。

その為には、最新ITを活用した一人一人の能力向上となる。

4. 当社の概要とITサービス、その過去と現在

☆ 当社は、昨年11月10日、会社創立35周年記念を迎えました。

1988年11月、ITサービス専門企業として大田区蒲田で創業、

社名はアイヴィス、IVISの音読みです。

視覚による世界、画像と認識、その対象の3D実体と属性など、モノづくりと共に人工知能開発の専門企業を目指し、一晩考え、社名を「Intelligent Vision and Image Systems」とした。

ITの良い所は、経営や営業でも、分野では農業でも医療でも、製造や物流でも、レジャーや芸術工芸でも広く役に立つことだ。

当社では、このシステム開発をITソリューションサービス(ITSS)と称して、創業期から継続して行っている。

ITサービスこそが、生産性向上という問題解決の基本となる。

しかし、ITSSは人や組織と共存分担するシステム、人を介してシステムの連携を計る為、もう一段生産性向上が進まなかった。

最近のAIは人の知的作業を支援、代行までする様になっている。

当社には、ITSSと共に、先端を追続けて来た伝統と文化がある。

5. 大変革期の渦中にあるITサービス

☆ ITサービスは今、変革期の渦中、今後10年間で益々発展する
端末の進化と共にアーキテクチャとプラットフォーム軸に、
顧客主体の新たなITサービスが生まれ成長し、変革が進む。
所有から利用、経験者の論理からデータに学ぶ時代へ、
スクラッチの新規開発からアセット活用時代へ、
ITベンダーから顧客中心の時代へ、
旧体制は徐々に崩れ去り、ITサービス産業に生まれ変わる。
愈々、技術変化に適応性の高い若者が活躍する時代となる。
そこに昨年現れて世界中で話題になったのが「生成AI」だ。
複数の言語間の翻訳は勿論、長文の論説の要旨を纏める力、
どんな質問にも深い経験と豊かな知性があるが如く応える。
応用分野が幅広いので、生成AIの生産性向上効果は大きい。
業態革新のDXと共に
「生成AI」が加わったITサービスは日本の課題を解決する。
少子高齢化課題を解決、豊かな日本を支える上でITの進化と
それを社会実装するITサービスの重要性は益々大きくなる。

6. 時代の半歩先へ、進化する当社

☆ **新たな使命を担い、当社は先進IT技術の発展と共に、進化する。**

皆さんを加えて当社の現社員は840名、平均年齢は33歳です。

AIを中心とする先端技術人材が120名、基盤系80名を加えて先進技術者200名、国の大型研究2案件、その他、先進企業や研究機関との委託研究を通じ技術導入と人材育成を図っている。

これだけの先進技術者が揃っているITサービス企業は少ない。

今年、TS（トヨタシステムズ）とBIPROGYの資本参加を得て、

ビッグデータと共に、将来を拓く大手3社との連携体制が整った。

ITサービスの大変革期の渦中にある今、会社の成長条件は、

未来を拓く人材… 人がいても人材がいなければ不可能

企業経営の安定… 人材がいても顧客がなければ不可能

優れた価値生産… 顧客がいても専門技術なければ不可能

変革を支える力… 専門技術あっても特色なければ不可能

持続的な成長力… 特色があっても信用がなければ不可能

当社は今、上記条件が揃いつつある可能性溢れる立位置にある。

業界仲間も多い。後は我々自身の構想力と日々の努力の積重ねだ。

7. 未来を拓く若者への期待

☆ 技術変化が激しい時代は、基礎知識と自ら考える力が大切

先端技術が実用化段階に入り、実用化への課題解決が技術者の重要なテーマとなる中、定型的な仕事の仕方では成長はない。最先端の知識を身に付けながら、そこで出会う問題解決には、自ら調べ考え、その上で先輩専門家の指示を仰ぐことが大切だ。新人の皆さんは、経験を経て技術者へと育って行く立場にある。主体的な努力と共に、現場現実に学び、不明な処は外部の知恵や技術に学ぶ、臨機応変な技術者の姿勢と行動力が要求される。私が毎月、社内向けに作っている「予定業務と要員配置計画」に書いている新年度4月版のメッセージを皆さんに贈ります。

「人は仕事を通じて成長する。

人は目標を立て、そこへ向かう努力の中で成長する。

人は計画を遂行する過程で出会う課題や問題を超越成長する。

高い目標を目指すことは、未知の分野に踏込むこと、問題や

課題に出会うのは当然だ。そこで怯めばそれで終り、そこを

超える意思と耐力、社会的情熱が己を磨き、人を人にする。」

8. おわりに

☆ 東急会長の野本弘文氏の言葉を、新社会人の皆さんに伝えたい。

「東急グループの本拠地である渋谷の駅周辺では、『100年に一度』の再開発が今なお進行中だ。会社人生の中で、かねて私が温めていたイメージが一つひとつ実現している。こう書くと組織の本流を歩んだキャリアを想像する方が多いかもしれない。だが事實は真逆。入社半年後の配属は、地方に飛ばされ……。どこにいても、目先の仕事とは別に会社の将来像を描く企画書を個人的に作るのが好きだった。こんな未来に向けこんな仕事をしたい……。夢や希望は誰でも持てるが、『志』がなければ夢は実現しないという言葉を若い時から大事にしていた。」

これは日経新聞3月の「私の履歴書」に載った本文からの引用です。実は、野本会長のお兄さんは、自分のユニバック時代の同僚です。明るく前向き、構想豊かな技術者であると同時に仲間達への気配りと共に飾らない人柄、役員手前で病に倒れたが、文章を読んでいると、将来を嘱望されつつ逝った故野本雄一先輩の話を聴いている様だ。人生何が起きるか解らず天運に任せるしかないが、与えられた環境の中でベストを尽くせば、その志は個人を超えて次代に引継がれて行く。

☆ 最後に、例年の入社式で使う「おわり」の言葉を掲載して置く。

日本の将来を担う若者達、

視野広くITサービスを通じて社会貢献を心がけてほしい。

会社や個人を超え日本の未来を拓くIVIS社員に育って欲しい。

◇◇ 今日から社会人。

視野広く世の中の在り様を冷静に観察する。

歴史と歴史上の人物に学んで、考え行動する力を磨く

社会的関心と共に将来への夢を描き、目標へ向かって努力する。

◇◇ 今日から職業人

仕事を通じて学ぶ基本の軸をずらさず、自分を冷静に見直す。

基本の軸は5年後の自分の姿、具体的な行動に落とす。

3年ごとにゴールを設定、節目で振り返る。

◇◇ 最後に、幕末の思想家・教育者、吉田松陰の言葉を紹介する。

夢なき者に理想なし。理想なき者に計画なし。

計画なき者に実行なし。実行なき者に成功なし。

故に、夢なき者に成功なし。 ——— 吉田 松陰

◇◇ 1年後の皆さんの成長を期待する。

目標をもって、地道な努力を続けてください。 (了)